

〈隷書〉

深山無化雪

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする)

半折作品は各課目ごとに横／＼に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉

深山無化雪

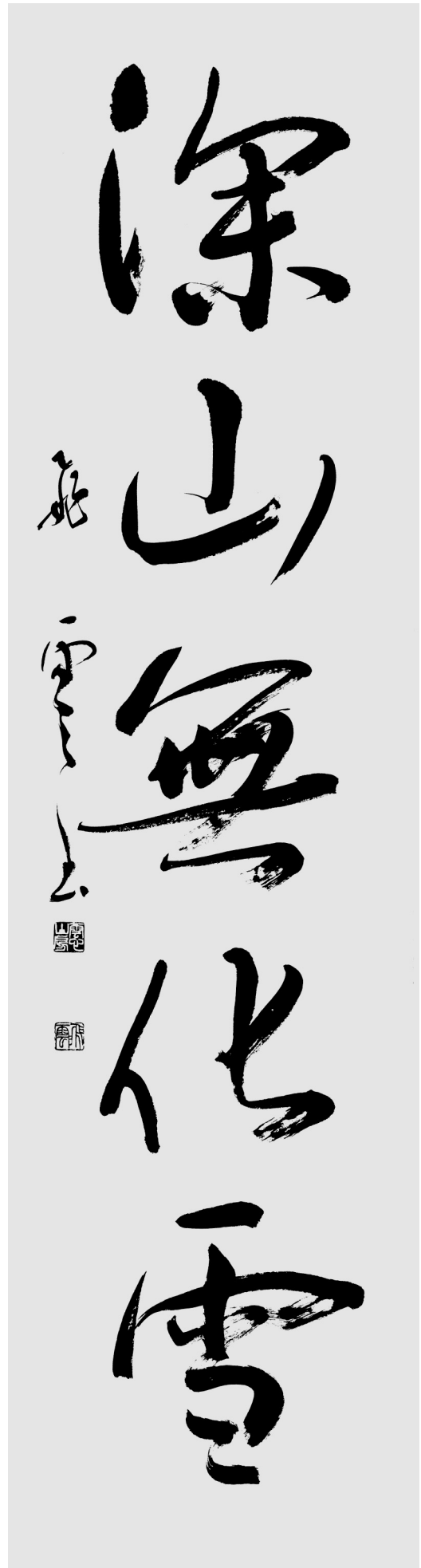
清原大龍先生書

□ 深山には化くる雪無し。

(明・袁宏道)

次号予告「夕陽千樹鳥聲寂 涼月一庭花影深」

〈行書〉

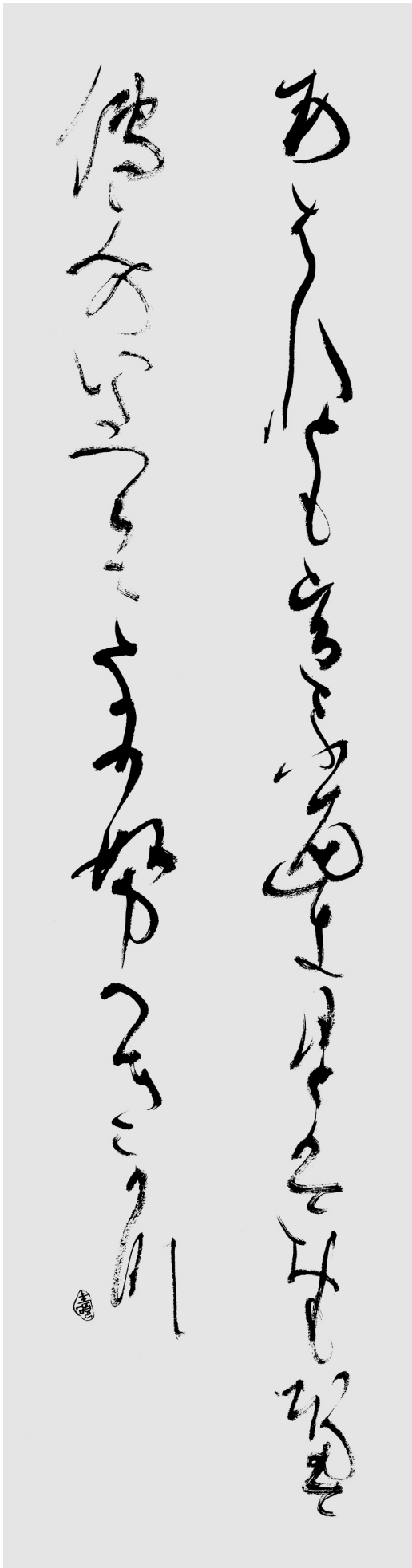


山本飛雲先生書

▽深い山には溶けて消えるような雪はない。変わることをない深い友情をいう。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ あ者<sup>は</sup>れとも 意<sup>い</sup>ふ遍<sup>へ</sup>支<sup>き</sup>日<sup>ひ</sup>と盤<sup>は</sup>  
あはれとも いふへき人は 思<sup>おも</sup>ほえて 身<sup>み</sup>のいたつらに  
なり努<sup>ぬ</sup>へき可<sup>かな</sup>那

△百人一首四十五▽

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

井之上 南岳先生臨

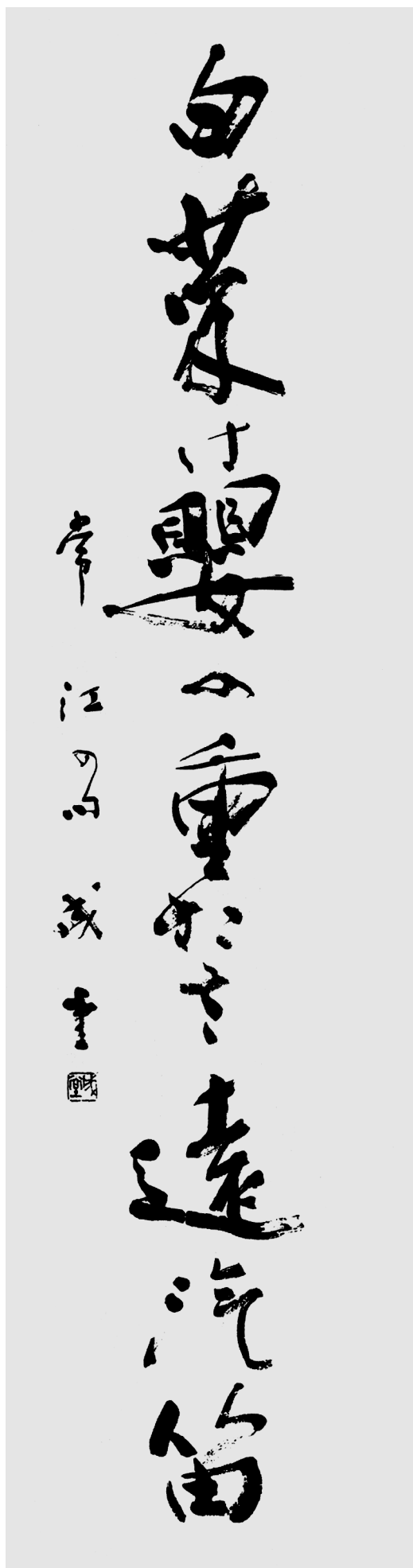


▽ 喪乱帖

雖即脩復未獲奔馳哀毒益深奈何奈何

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田 成堂先生書



□ 大西常江の句 白菜は 嬰<sup>やや</sup>の重たさ 遠汽笛

《手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½縦のみ） —11月末日締切—

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

□ 銀色夏生の詩・「僕が守る」

自由が恋しくて 窓から外を見ていた

横への広がりやの文字と、縦を意識しての文字のつながりを印象づけた箇所を明確にしてみました。



小 畠 秋 聲 先 生 書

条幅随意参考手本（半折½縦のみ） —11月末日締切—

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□ 縄直（じょうちよく） 墨縄（すみなわ）のようにまっすぐなこと。転じて規則。

墨縄とは大工が直線を引くのに用いる器具をいい、縄に墨を付け、縄を弾くことで材に直線を転写することができる。昔ながらの知恵の器具である。日本独特の先人の知恵には、敬服させられる。筆も究極の筆記用具である。筆の持ち味を活かして書きましょう。

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 密雪寒燈に映ず (唐・杜牧)  
粉雪は寒々としたともしびに照らされてしんと降り積む。ひとり夜の静けさ。

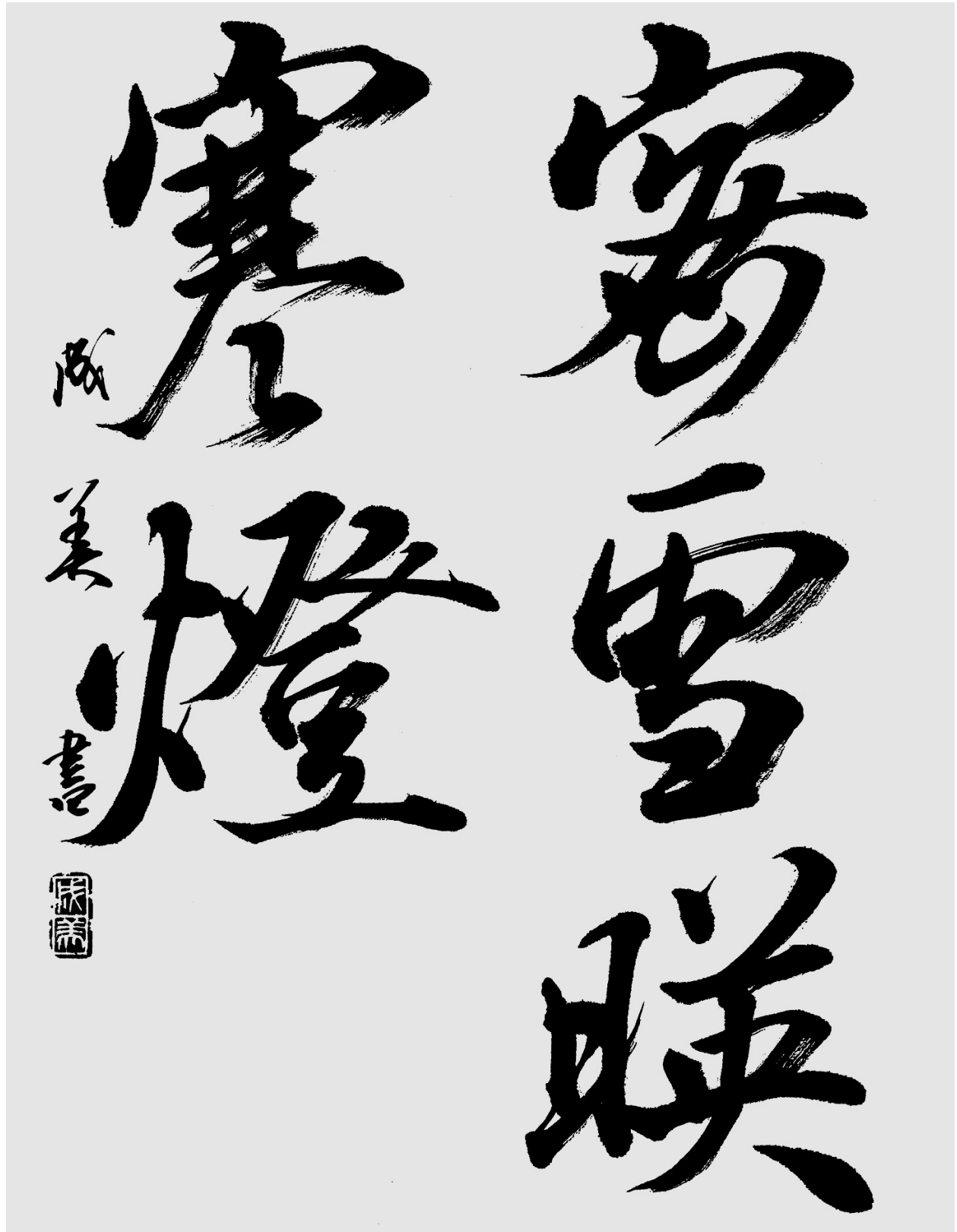


次号予告「人生貴適意」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 密雪寒燈に映ず (唐・杜牧)  
粉雪は寒々としたとしびに照らされてしんと降り積む。ひとり夜の静けさ。



次号予告「人生貴適意」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

□感 通 感じて通ず (易経)  
天下のことを感じ取る。



次号予告「起敬」

廣瀬蘇水先生書

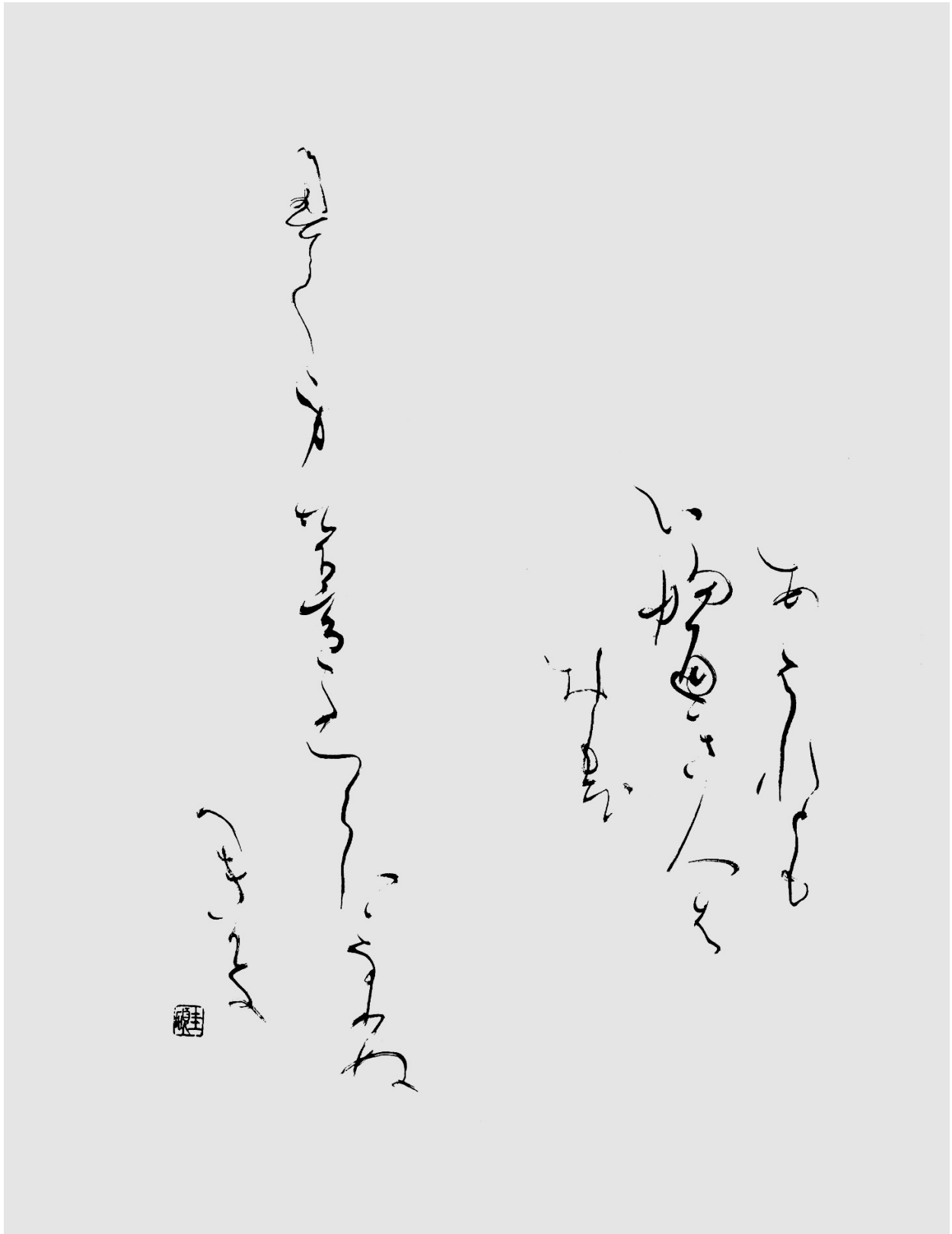
半紙随意参考手本 —11月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

あはれとも いふへき人は 思ほえて 身のいたつらに なりぬへきかな

□ あ者れとも い婦遍き人者 おも本盈氏 身農意多つらに なりぬへきかな



舟尾圭碩先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

「一瞬に生きる」 人生には無駄というものは何ひとつない △小久保裕紀のことば▽

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)



川上和子先生書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽

筆の流れや懐の広さに注意して書きましょう。



「雖即脩復」

吉田成美先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△実用書▽

拝啓 謹啓 前略 拝復 敬具 追伸 草々 かしこ 取り急ぎ 略儀ながら  
ご自愛のほど 益々のご活躍を祈念 書中をもつてご挨拶

|        |           |  |        |     |    |
|--------|-----------|--|--------|-----|----|
| 姓<br>号 | 益々のご活躍を祈念 |  | 取り急ぎ   | 敬具  | 拝啓 |
|        | 書中をもつてご挨拶 |  | 略儀ながら  | 追伸  | 謹啓 |
|        |           |  | ご自愛のほど | 草々  | 前略 |
|        |           |  |        | かしこ | 拝復 |
|        |           |  |        |     |    |
|        |           |  |        |     |    |

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

早いもので今年には楓ちゃんのお祝いですね 最近はお手伝いが得意だとか、料理のお手伝いが得意だとか、揃いの可愛い割烹着を送ります 親子で使ってくださいね

早いもので今年には楓ちゃんのお祝いですね 最近はお手伝いが得意だとか、揃いの可愛い割烹着を送ります 親子で使ってくださいね

兵頭白慧先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書▽

書言

前々部長昇進おめでとうございます。  
とはいえお付き合ひも断りきれず、過労気味  
とか、奥様も心配しつぱりなりました。  
メキシコ五輪で銀メダルに輝いた君原建こ  
さんは自著に、人生はマラソンよりも駅伝に  
似てるよと書いています。仕事柄、先人より  
タスキを責任持つ次の世代に渡すときは、  
大変だと思われそうですが、信念を持つと  
頑張るべきです。

草一

野のある便箋に書いてみよう。

△26 cm × 18 cm▽

紙質は自由。

• 東京オリンピックが決定。昔のフィルムでよく見た君原選手の走るフォームも独特のものでした。書も人それぞれ、独特のリズムがあるようです。自らのリズムを楽しんで練習してみてください。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

小 畠 秋 聲 先 生 書

学問の力

小学 4 年

馬どし

小学 3 年

おみくじ

小学 2 年

はる

ようねん・小学1年

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

飛梅の香

中学 2・3 年

花鳥風月

中学 1 年

情熱の人

小学 6 年

親友の心

小学 5 年

坂元紫香先生書

〈条幅 1/4 四尺画仙紙半折 1/4 : 68 cm × 17・5 cm〉

ようねん・小学一年

次号予告「や ま」

はる

□「むすび」の部分は、筆だけをまわらずに、腕全体で伸びやかに書きましょう。

小学二年

次号予告「なかよし」

くお  
じみ

□筆はかるくにぎり、「ハライ」や「トメ」はていねいに書きましょう。

坂 元 紫 香 先 生 書

小学三年

次号予告「水 玉」

馬

□筆順に気をつけ、上部、下部のバランスや横線・タテ線の強さの変化、点の方向に注意。

小学四年

次号予告「実 る」

学  
問

□「学」は「学」と「子」のバランス、「問」は字形をタテ長にとり、文字内の余白を均一にとろう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学 五年

次号予告「広がる夢」

親友

□「親」は五・六画目の横画の長さに注意し、「友」は左右の払いをのびやかに書こう。

小学 六年

次号予告「希望の春」

情熱

□「情」はたて画をまっすぐにしっかりと。「熱」は上部と下部のバランスに気をつけて。

秋 永 春 霞 先 生 書

中学 一年

次号予告「世界紀行」(行書)

花鳥  
風月

□字形をや、タテ長にとりながら、となりの文字とのバランスに注意し、伸びやかに書こう。

中学二・三年

次号予告「創造する喜び」(行書)

飛梅

□「飛」は文字の中心と筆順、「梅」は偏と傍のバランスに注意し、自然な流れをつかもう。

吉 田 成 美 先 生 書

小学二年

[illegible]

坂元紫香先生書

## ようねん・小学一年

| 段 級 |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| 氏 名 |   |   |   |
| バス  | う | せ | と |
| ス   | 車 | て | を |
| や   | は |   |   |
|     |   |   |   |
| じ   | 人 | は | し |
| ょ   | を | こ | て |
|     |   | ぶ | い |
| う   |   | し | ま |
| よ   | の | ご | す |

いちばん ながく かく  
「一」画 車  
(ひと) ノ人 ⑥はらう

小学四年

|                           |                      |                             |                        |                            |                           |
|---------------------------|----------------------|-----------------------------|------------------------|----------------------------|---------------------------|
| ⑤なまめにうつ<br>きききき証試験<br>(一) | ⑥上にはねる<br>証試験<br>(一) | ⑦まくすぐく下におろす<br>一寸市直直<br>(一) | ⑧かんで書く<br>一寸市直直<br>(一) | ⑨上の横画より短かい<br>一寸市直直<br>(一) | ⑩上の口より大きい<br>一寸市直直<br>(一) |
| 試合終りよう直後のシー               |                      |                             |                        |                            |                           |
| ンを見てみましよう。選手              |                      |                             |                        |                            |                           |
| とおうえんした人たちが、              |                      |                             |                        |                            |                           |
| 勝利を喜び合っています。              |                      |                             |                        |                            |                           |

坂元紫香先生書

小学三年

大豆にふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふうもあります。

小 学 六 年

[illegible][illegible]

小 学 五 年

[illegible]

小 畠 秋 聲 先 生 書

## 一 般 (A)

|    |  |
|----|--|
|    |  |
| 段級 |  |
| 氏名 |  |
|    |  |

言葉の不思議さは、しばしば筆者の  
意図を超えてひとりでに動き出し、新  
しいメッセージを生み出す。このよう  
な事に関し、言葉からも読書からも、  
新鮮な感銘を受けることが多かった。

一  
口  
口  
𠂔  
𠂔  
叫(或)  
  
フ  
飛⑤はねる  
下  
飛  
飛⑥はねる  
飛  
一  
三  
戸  
肩  
肩

中学

「夜遅く、出窓で見張っていた弟が、  
帰ってきたよ」と叫んだ。茶の間に  
座っていた父は、はだして表へ飛び  
出した。防火用水おけの前で、やせ  
た妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。

小 畠 秋 聲 先 生 書